



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2017年3月1日発行

第53号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0824 堺市堺区老松町2丁58-1
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL http://www.mimihara.or.jp (同仁会HP)

歯科リニューアル、サ高住「蔵前」オープンを力に

いのちと人権を守る地域包括ケアを

安全・安心のネットワークで

ソーシャル・バイタルサイン (Social Vital Sign)
「人間らしく生活している証」

人間は社会的存在であり
その状況に関する情報、兆候

- ・食生活：摂食は必要十分か
- ・住居：健康に暮らすのに適切か
- ・ライフライン：水道、ガス、電気、下水道、情報（新聞、TV）
- ・社会的基盤：医療、介護、自治体、福祉（ヘルパーなど）
- ・人間関係：独居、家族、隣近所、町内会、老人クラブ、ヤクルト

北海道勤労者医療協会
理事長 堀毛清史医師

◆記念講演 SVSと地域包括ケア

同仁会グループ新年集会在1月14日、堺市立西文化会館ウエスティで開催されました。役職員・友の会・関係者324人が集い、新たな一年に向けて、思いをひとつにする場となりました。

オープニングは、耳原の歌〜ありがとつ、手をつなごう〜を作曲していただいたシンガーソングライター野田淳子さんのミニライブ。ギターと透明感のある歌声で魅了された時間になり、会場全員で「耳原の歌」を合唱。この日に完成したCDも紹介してくれました。

記念講演は北海道勤労者医療協会（以後 勤医協）理事長の堀毛清史医師による「健康権を掲げS

民医連綱領：中文 私たちの目標(第1、2項)

一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります

健康権

一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます

◆基調報告
17年度の重点方針

六井勉専務理事からの基調報告では、同仁会のめざす2020ビジョンにむけて2017年度の重点方針の説明がありました。さいごに「貧乏からでた病気は、貧乏をなおさな治らん（故今村元副院長の言葉）。疾病の川上（原因）を見つめてきた同仁会の医療観・患者観が世界の主流へ。原点に立ち返って、さらなる前進を」と締めくくられました。

◆講演を聴いて

健康権を軸にして「札幌を診断」し、自部署の役割を意味づけ「自らが概念化」、それを民医連の全面実践につなげていると感じた。通常のバイタルサインは医師、看護師などの専門職がとり、ソーシャルバイタルサインは、すべての職種が取る事ができる。地域包括ケア時代と言われる現在、病気が暮らしを把握できるシステムを自治体、地域の病院、開業医、在宅、地域の問題も含めて一緒に取り組む事が民医連の役割であると改めて感じた。



フォークシンガーの野田淳子さん

同仁会グループ新年集会2017

こんにちは！ 同仁会グループ 事業所だより

2016年5月、老松診療所がみみはら高砂クリニックに統合されました。総合病院エリアの内科・小児科・整形外科・皮膚科等の外来機能に加え、今後、超高齢化社会の中で4人に1人が認知症といわれる時代を迎えます。これからの医療は、「治療する」だけでなく「予防」「生活を維持する」機能が強く求められることから、健康サポートセンターや訪問診療部、通所リハビリテーション、ケアプランセンターを併設し、医療・介護・福祉の総合複合施設として新たなスタートをきりました。

リニューアル以降、小児フロアのトイレを改装し、より使用しやすくなりました。また来月には、運動講習会「ノルディックウォーキング（ポールを使っ

健康・子育てを全面サポート

2016年5月、老松診療所がみみはら高砂クリニックに統合されました。総合病院エリアの内科・小児科・整形外科・皮膚科等の外来機能に加え、今後、超高齢化社会の中で4人に1人が認知症といわれる時代を迎えます。これからの医療は、「治療する」だけでなく「予防」「生活を維持する」機能が強く求められることから、健康サポートセンターや訪問診療部、通所リハビリテーション、ケアプランセンターを併設し、医療・介護・福祉の総合複合施設として新たなスタートをきりました。

健康サポートセンタートレーニング室

〒590-0820
堺市堺区高砂町4丁109-2
TEL : 072-241-4990



乳幼児健診の様子